

中東・イスラーム圏の衣服に 日本の技術・伝統を活かす



後藤 真実

Manami GOTO

助教

博士（アラブ・イスラーム学）

国際資源学研究科 資源政策コース

研究キーワード

ムスリム、伝統衣装、繊維業、商品開発、観光誘致、中東、地域研究

研究概要

中東圏、特にペルシャ湾地域を対象に、宗教的側面が強調されがちなイスラーム教徒（ムスリム）の服装について、政治、経済、自然環境、文化的背景に着目しながら、その歴史的変遷や社会的役割について研究しています。

中東圏の衣服は日本に馴染みがないと思われるかもしれませんが、日本製生地が現地の伝統衣装に使用されていたり、着物のデザインがファッションの一つとして取り入れられたりしています。

現在、ドバイなどの湾岸諸国で着用される白い男性国民衣装生地の約35%は日本製が占めています。今後は現地の生活様式や気候、風合い、嗜好をどのように日本の技術をもって商品化してきたか、そしてそれが現地社会に与えた影響を調査し、日本企業の中東・イスラーム圏の繊維市場への新規参入や事業拡大に貢献したいと思っています。

また、それらの技術やデザインは、近年急増するムスリム観光客誘致のための衣料品開発にも応用できると考えます。



- ▶ イランでの現地調査の様子。中東地域では、アラビア語、ペルシャ語、英語を用いて聞き取り調査を実施しています。



- ▶ 2022年のカタールW杯でメッシ選手が着用した黒いローブも日本製生地を使用しています。



- ▶ 一般的に湾岸男性の国民衣装は仕立て屋で生地が選ばれ、着用者の身体の寸法に合わせてオーダーメイドで作られます。

予想される応用例

- ・中東・イスラーム圏向けの繊維・衣料品開発
- ・訪日ムスリム向けの衣料品やサービスの創出

産業界へのアピールポイント

中東現地で収集したデータや経験に基づき、繊維・衣料品開発に限らず様々な分野で産学連携を推進していきたいと思っています！